

第3次町田市地域福祉計画
町田市社会福祉協議会 第四次地域福祉活動計画

地区活動計画

2020 年度版

みんなが輝く！
10地区の活動

2021年3月

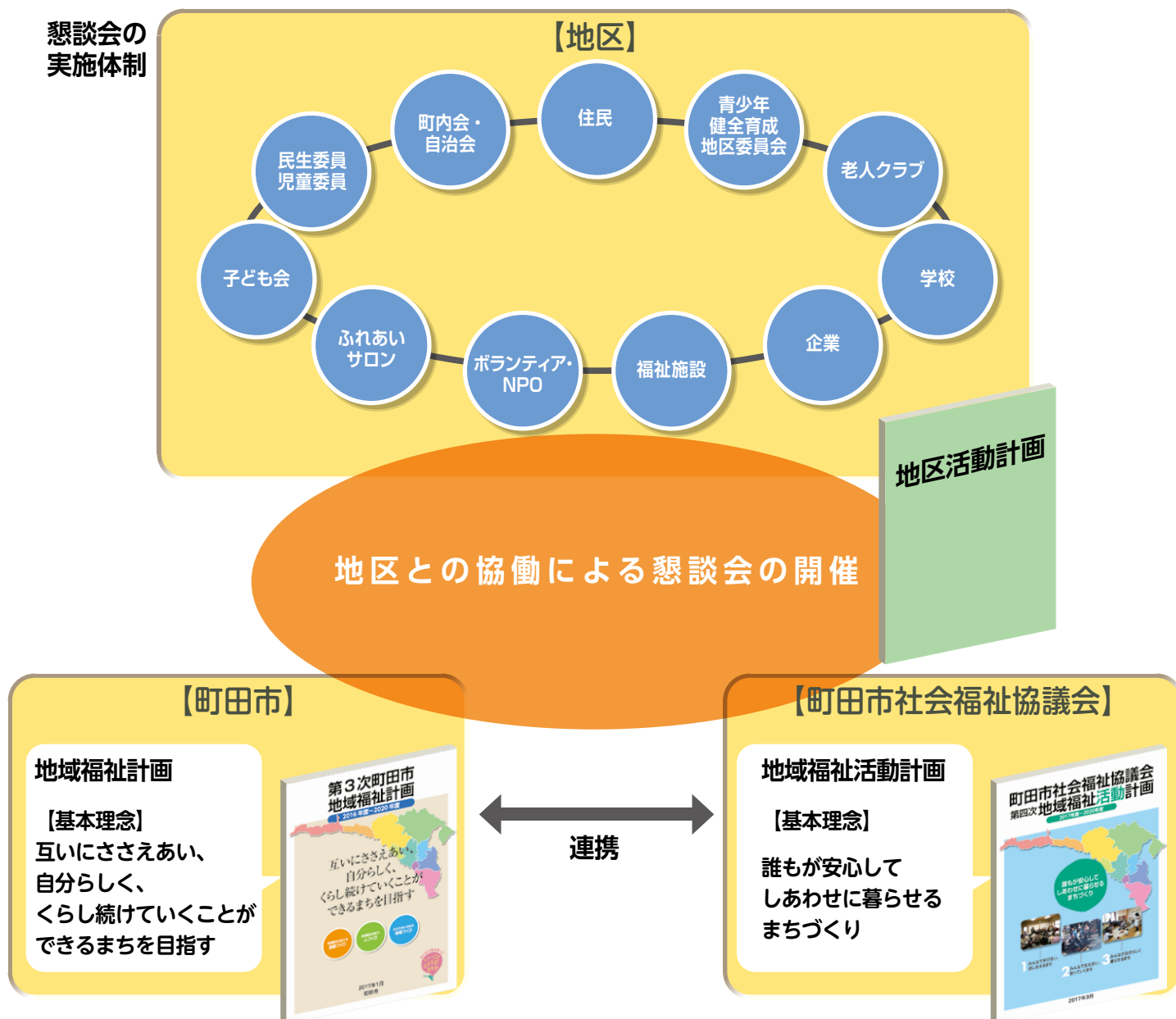
地区活動計画の考え方

地区活動計画2020年度版は、2019年度までに実施した地区別懇談会の経緯を踏まえ、2020年度に実施したアンケート調査でのご意見をもとに、10地区ごとに今後の方向性と具体的取組を整理し、アンケートの結果や取組の事例紹介等を掲載したものです。

町田市は、地理的な条件、住宅事情、活動している団体の数や種類、住民の年齢層や意識等、地域による違いが大きいので、地域特有のさまざまな課題やニーズを抱えています。

こうした状況の中で、町田市の「第3次町田市地域福祉計画」と町田市社

会福祉協議会の「第四次地域福祉活動計画」の基本理念を実現するためには、両者が連携して計画を推進していく必要があります。さらに、住民自らが地域のことを考え、互いに協力しながら、「地域福祉」について考えていくことが求められています。



アンケート調査の実施概要

第3次町田市地域福祉計画を策定した2016年度以降、市内10地区で町田市と社会福祉協議会の主催（地区によっては関係機関・団体と共催・後援）による地区別懇談会を実施し、地域で活動される個人や団体、また地域

と関わりのある事業者や関係機関等の多くの皆様と話し合いを通して、地域のつながりづくりや困りごとの把握等に取り組んできました。

2020年度の地区別懇談会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止

のため、全ての地区で開催を中止する代わりに、アンケート調査を通じて地域での活動状況や今後の活動意向、地区別懇談会に対してのご意見等を伺いました。

調査対象・調査方法

地区名	町田第二地区、小山地区を除く8地区	町田第二地区、小山地区
調査対象	町内会・自治会、民生委員・児童委員、青少年健全育成地区委員会、老人クラブ、NPO法人、ボランティア団体、ふれあいサロン・子育てサロン、障がい者当事者団体・家族会、保育園・幼稚園、小学校・中学校・高校・大学、小学校・中学校PTA、町田市内の社会福祉法人、高齢者支援センター、障がい者支援センター、地区社会福祉協議会、地区協議会、社協福祉協力店、高齢者支援センター登録自主グループ	地区内の保育園・幼稚園に通う保護者
調査方法	郵送配布・郵送回収	保育園・幼稚園を通じて配布 Web上もしくは施設で回収

調査時期・アンケート内容・回収結果

地区名	調査時期	アンケート内容	発送数	回収数 (回収率)
相原地区	2020年12月18日(金)～ 2021年 1月 6日(水)	●相原人材BANKについてのアンケート	78	40 (50.6%)
鶴川地区	2020年12月23日(水)～ 2021年 1月15日(金)	●鶴川地区 コロナ禍における活動についてのアンケート	286	194 (67.8%)
南地区	2020年12月25日(金)～ 2021年 1月15日(金)	●南地区 地区別懇談会 事前アンケート ～コロナ禍における地域団体の活動状況について～	279	142 (50.9%)
忠生地区	2021年 3月 5日(金)～ 2021年 3月15日(月)	●忠生地区 地区別懇談会等についてのアンケート (コロナ禍での活動状況・資源マップについて)	202	98 (48.5%)
木曽地区	2021年 3月 5日(金)～ 2021年 3月19日(金)	●木曽地区 コロナ禍における活動についてのアンケート	82	44 (53.7%)
町田第一地区	2021年 3月 5日(金)～ 2021年 3月22日(月)	●町田第一地区 地区別懇談会等についてのアンケート(地域の防災について)	74	35 (47.3%)
玉川学園・南大谷地区	2021年 3月12日(金)～ 2021年 3月24日(水)	●玉川学園・南大谷地区 地区別懇談会等についてのアンケート(生活支援活動について)	124	61 (49.2%)
高ヶ坂・成瀬地区	2021年 3月19日(金)～ 2021年 3月26日(金)	●高ヶ坂・成瀬地区 コロナ禍における活動についてのアンケート	155	86 (55.5%)
町田第二地区	2021年 3月24日(水)～ 2021年 3月31日(水)	●町田第二地区のコロナ禍でも親子で楽しめるイベントに関するアンケート	—	70
小山地区	2021年 3月24日(水)～ 2021年 3月31日(水)	●小山地区の子育て支援についてのアンケート	—	104

※6ページ以降に掲載するグラフの回答件数が、アンケートの回収数より少ないものは、一部の方だけに回答をお願いした質問です。

10地区の概要 <目次>

町内会・自治会連合会の地区連合会のエリアを基本とした10地区をご紹介します。

※人口は2020年10月1日現在

1 相原地区 ➡ p.6

人口：15,029人（14歳以下の割合：10.9%、65歳以上の割合：30.9%）

<特徴>

- 大半が緑地として保存されている自然豊かな地域である。
- 町内会・自治会加入率が58.0%と市内で最も高くなっている。
- 65歳以上の人口の割合、要介護認定率、人口に占める障がい者の割合が市平均よりいずれも高い。



薬師池の桜



鶴見川源流の泉

2 小山地区 ➡ p.8

人口：30,489人（14歳以下の割合：17.7%、65歳以上の割合：17.2%）

<特徴>

- 歴史ある社寺や郷土芸能、豊かな自然が残る一方で、近年の整備で子育て世代を中心に若い世代が定住し、14歳以下人口の割合が10地区の中で一番高い。
- 小山町と小山ヶ丘で、年齢構成や居住年数等の差がある。
- 高低差が激しく、高齢者等にとっては地区内での移動が困難な場合がある。

3 忠生地区 ➡ p.10

人口：52,946人（14歳以下の割合：12.5%、65歳以上の割合：30.3%）

<特徴>

- 北部は多摩丘陵の自然が広がっており、公園や農地等、都市圏にありながらも自然豊かな環境が維持されている。
- 子育て関係と、高齢者・障がい者関係施設が充実している。また、高校が4校、大学が1校ある。
- 65歳以上人口の割合は市平均より上回っている一方で、要介護認定率は市平均を下回っている。



小山田桜台団地

4 木曽地区 ➡ p.12

人口：23,564人（14歳以下の割合：12.1%、65歳以上の割合：30.6%）

<特徴>

- 境川沿いの散策路を身近に楽しむことができ、自然と共に暮らすことができる地域である。
- 団地が人口の半数以上を占め、高齢化が進んでいる。
- 75歳以上人口の割合、人口に占める障がい者の割合が市内で最も高くなっている。

5 鶴川地区 ➡ p.14

人口：91,787 人（14 歳以下の割合：12.0%、65 歳以上の割合：27.0%）

<特徴>

- 自然と調和した閑静な住宅地が広がっている。また、歴史・文化資源が多く残っており、文化の交流の核となっている。
- 2019 年度に地区社会福祉協議会（地区社協）が設立されている。
- 高齢者・障がい者関係施設だけではなく、教育施設も充実しており、高校が 3 校、大学が 3 校、特別支援学校が 2 校ある。



まちだリス園

6 町田第二地区 ➡ p.16

人口：53,151 人（14 歳以下の割合：10.1%、65 歳以上の割合：29.5%）

<特徴>

- 町田駅周辺は市街地としてにぎわう一方、落ち着きのある住宅地も広がっている。
- 75 歳以上人口の割合、要介護認定率、障がい者数の割合がいずれも市平均より高くなっている。
- アパートやマンションが多く、町内会・自治会への加入率が低い。

7 玉川学園・南大谷地区 ➡ p.18

人口：31,090 人（14 歳以下の割合：12.2%、65 歳以上の割合：27.5%）

<特徴>

- 地域のほとんどが丘陵地の中にあり、起伏豊かな地域である。
- 住民主体の活動団体が多く、2010 年に地区社協が設立されている。
- 学園都市として高校が 1 校、大学が 2 校等教育関連施設が多いが、障がい者関係施設は少ない。

8 高ヶ坂・成瀬地区 ➡ p.20

人口：43,891 人（14 歳以下の割合：12.2%、65 歳以上の割合：28.0%）

<特徴>

- 土地区画整理事業による宅地化が進み、緑が多く落ち着いた住宅地である。
- 65 歳以上人口の割合が市平均より上回っている一方で、要介護認定率は市平均を下回っている。
- 障がい者・福祉関係施設が充実している。ふれあいサロンも多い。

9 町田第一地区 ➡ p.22

人口：15,135 人（14 歳以下の割合：9.2%、65 歳以上の割合：19.6%）

<特徴>

- 町田駅周辺には大型店舗と商店街があり、にぎわいの拠点となっている一方で、芹ヶ谷公園等の豊かな自然も残されている。
- 15～64 歳人口の割合が高く、その他の世代が少ない。
- 公共施設は多いが、高齢者・障がい者関係施設は少ない。

10 南地区 ➡ p.24

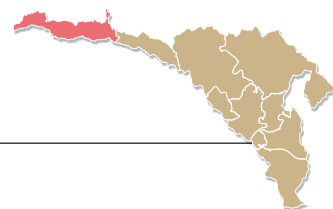
人口：72,118 人（14 歳以下の割合：12.8%、65 歳以上の割合：25.7%）

<特徴>

- 南町田グランベリーパーク駅周辺は大型商業施設を中心に、市外からも人が集まるにぎわいの場となっている。
- 南町田では 2014 年に地区社協が設立されている。
- 保育園・幼稚園等の子育て関係施設や、ふれあいサロンが充実している。



町田駅前



2020年度までに取り組んだこと

- 相原人材BANKを開設・運営する、相原地区社会福祉協議会の設立に向けて設立準備委員会を立ち上げました。

今後の方向性

- 相原地区社会福祉協議会を設置します。

具体的取組

- アンケートで協力できると回答した人向けに研修等を行い、相原人材BANKを展開させていきます。

相原人材BANKについてのアンケート結果

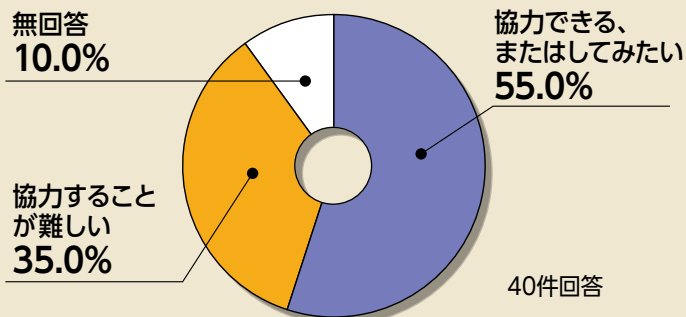
アンケート調査 結果から 見えたこと

- 「相原人材BANK」に協力できる人は半数以上と、地域の困りごとに対して自身の得意なことやできることを活かして協力したいと考えている方が多くいます。

- 協力できること、お願いしたいことで共通して高い項目は、専門的な知識を必要とする支援や外出・移動の支援となっています。

● 「相原人材BANK」への協力意向

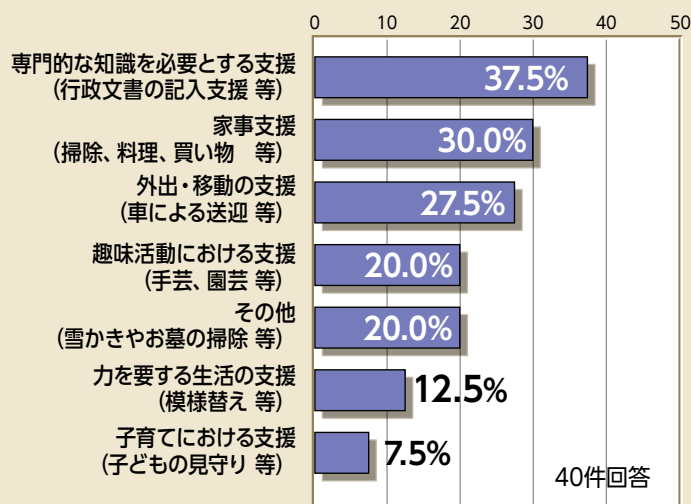
「協力できる、またはしてみたい人」が半数以上 <全体>



● 「相原人材BANK」にお願いしたいこと

「専門的な知識を必要とする支援」が3割後半、「家事支援」が3割

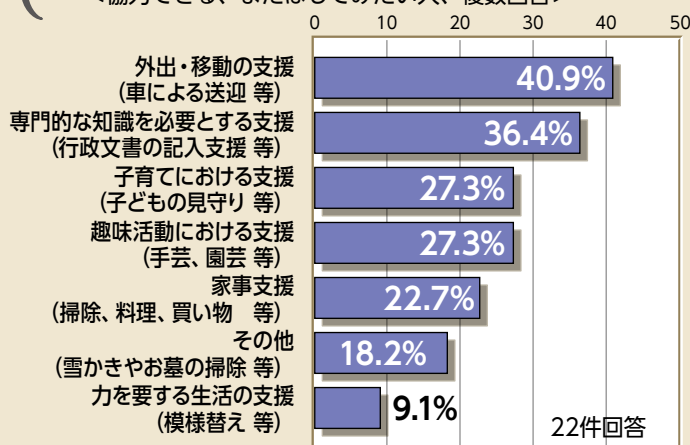
<全体、複数回答>



● 具体的に協力できること

「外出・移動の支援」が4割で最も多い

<協力できる、またはしてみたい人、複数回答>



相原人材BANK のスタートに 向けて

相原地区社会福祉協議会 設立準備委員会の立ち上げ

相原地区社会福祉協議会（相原地区社協）の設立に向けて2020年9月に町内会・自治会関係者や民生委員、地域で活動している団体の方がメンバーとなり、設立準備委員会が立ち上がりました。

相原地区社協は相原人材BANKの実施主体であり、相原地区における福祉分野の担い手となる存在です。地域の強みや課題を踏まえながら、地域のことを地域の方が考えるための仕組みづくりについて話し合っています。



相原地区社会福祉協議会設立準備委員会の様子

「相原人材BANK」とは？

みんなの力を持ち寄って 困りごとを解決する取組

相原地区にお住まいの皆様が、ご自身が得意なことやできることを「相原人材BANK」に登録し、住民の方々の困りごとの依頼を受けて、お手伝いをする活動の仕組みです。

相原人材BANK 得意なことやできることを登録

運転が得意



書道が得意

パソコン操作
が得意



通院やお買い物で
お困りの方へ移動
のお手伝い

毛筆を教わりながら
年賀状を書くお手伝い

リモートでの
交流をお手伝い



アンケートを通じて
相原人材BANK
に協力いただける方が
集まりました！

今回実施したアンケートでは、相原人材BANKに「協力できる、またはしてみたい」と回答した方のうち、今後、相原人材BANKのご案内を送ってもよいと22名の方からご回答をいただきました。ありがとうございます。

M E S S A G E

「相原人材BANK」の スタートに向けて

相原地区連合町内会長 井上様より

相原人材BANKの運営団体として、相原地区社会福祉協議会の設立に向けて準備委員会を組織し、協議をスタートしました。

相原人材BANKについてのアンケート調査結果からは、多くのことが見えてきました。「協力できる、協力したい」と回答した方が、半数以上という結果に希望の光を見た思いです。支え合い活動の実現に向かって精力的に邁進していきたいと思っています。

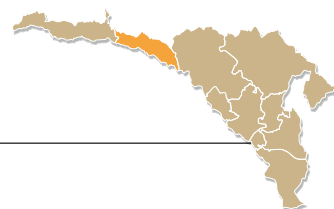
社会福祉協議会コメント

町田市社会福祉協議会では相原地区社会福祉協議会の設立、相原人材BANKの開設・運営に向けて設立準備委員会の連絡調整等をお手伝いしています。

準備委員会では委員の方からの「地域のために」という思いがひしひしと伝わってきます。地域の強みである人材を活用して、地域の中でお互いに支え合い、暮らしていく仕組みづくりのいいスタートが切れるように今後も地域の方々と進めていきます。

2 小山地区

小山ヶ丘1～6丁目、小山町



2020年度までに取り組んだこと

- アンケート調査において、インターネットとアンケート用紙の両方を使い、地域住民のニーズを広く調査できるように工夫しました。
- 介護予防サポーターが感染予防をしながら子育て支援の活動を行いました。

今後の方向性

- 親子向けイベントの開催に向け地域住民みんなで考えていきます。
- 子育てスポットが多く世帯に活用されるようにPR方法を工夫していきます。

具体的取組

- 地区別懇談会を使い、親子向けイベントの開催に向けて話し合いを行っていきます。

地区別懇談会等についてのアンケート結果

アンケート調査 結果から 見えたこと

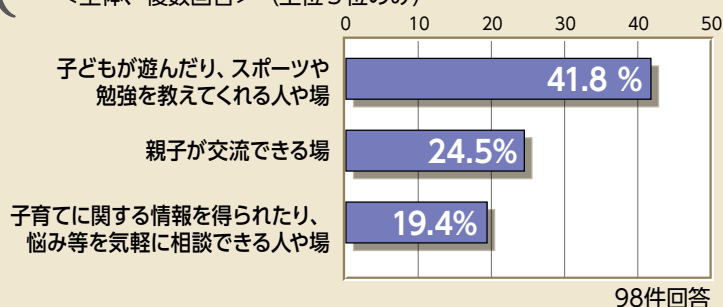
- 地域の子育て支援では、子どもが遊んだり、学ぶことができる子どもセンターや保育園・幼稚園の園庭開放、地域のサロン・遊び場の利用が見られました。

- 子育て支援を利用しない理由では、支援を受ける場所が近くにない、支援の情報が少ないといったことが挙げられています。

● 地域の子育て支援で利用しているもの

「子どもが遊んだり、スポーツや勉強を
教えてくれる人や場」が4割強

<全体、複数回答> (上位3位のみ)



● 利用している子育て支援

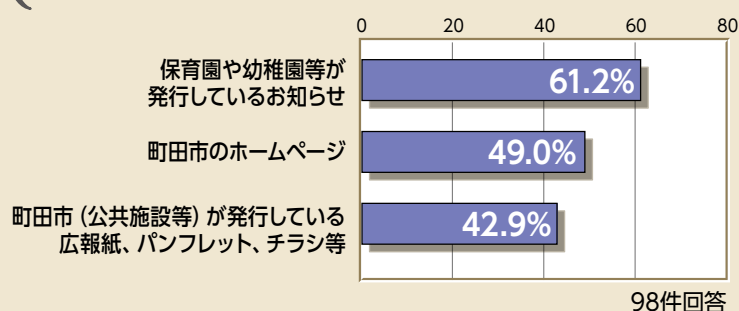
子どもセンター・子どもクラブや
保育園・幼稚園の園庭開放 ほか

- 子どもセンターばお分館WAAAO
- 小山子どもクラブ「さん」
- 堺地域子育て相談センター
- 保育園や幼稚園のイベントや園庭開放
- 保育園の子育てひろば
- 三ツ目山冒険遊び場
- みつばち文庫
- hitoiki time 等

● 地域の子育て支援情報の入手先

「保育園・幼稚園が発行している
お知らせ」が6割強

<全体、複数回答> (上位3位まで)



● 子育て支援を利用しない理由

場所が近くにない、情報が少ない

- 町田駅周辺に集中しており、小山地区は利用できる施設が少ない。
- 徒歩圏内に利用できるものがない。
- 駐車場がないので頻繁には行きづらい。
- 情報が手に入りにくい。
- 費用面、情報がどこに載っているかわからない。
- 平日は仕事があるため、平日のプログラム等には利用できない。
- コロナ禍で屋内施設には行けていない。
- 病児保育の利用が難しい 等

地域のつながりで 子育て支援

介護予防サポーターの子育て支援 (堺第2高齢者支援センター)

小山・小山ヶ丘地区では、元気高齢者のボランティアグループが、絵本の読み聞かせや、布おもちゃづくりで子育てのお手伝いをしています。これまでも、保育園や小学校、子どもセンター、子どもクラブ等で活動しており、子どもたちの元気と笑顔があふれる中、多世代でのつながりが様々な場所で深まっています。

介護予防サポーターの子育て支援の活動の様子



小山地区の子育て支援スポット紹介

子どもクラブ「さん」

子どもクラブ「さん」では、0～18歳の子どもがのびのびと遊びながら交流しており、子ども自身の「やりたい」という気持ちを応援しています。

また、特に乳幼児や幼児とその保護者の方たち向けのプログラムが充実しています。プログラムの名前も“てくてく”“はいはい”“すくすく”“はぐはぐ”等、馴染みやすい名前が使われており、工作や手遊び、わらべ歌等を通じて親子同士の素敵な交流が行われています。



子どもクラブ「さん」の交流活動の様子

かえで保育園

かえで保育園には子育て広場「メープル」があり、地域で子育てをしている方を応援する様々なプログラムが行われています。

かえで保育園は自然の中での活動を大切にしており、保育士が近隣の公園に出張して屋外遊びや、季節の工作も行っており、母の日のプレゼントでは手形や足形をスタンプしたものを素材にしたプレゼントづくりが行われています。



屋外のプログラムの様子

小山保育園

小山保育園では、地域全体で子育てを支援する取組として育児相談や保育士や栄養士による保護者へのサポートの他、保護者の相互交流や情報交換のための場所や機会の提供を行っています。

また、授乳やオムツ交換が気軽にできる施設として「赤ちゃん・ふらっと事業」や保育実習生や学生の職場体験、ボランティアの受入れも行っています。



赤ちゃん・ふらっと事業の様子

サンフィール保育園

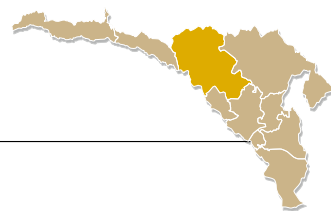
サンフィール保育園には子育て広場「マロン」があり、毎月2～3回、地域で子育てをしている方たちが出会える場となっています。

講師と一緒にいうリズム遊びや、工作を楽しむ親子遊び、園内でお友達や保護者の方と交流できるふれあい遊び等が行われている他、栄養士による親子クッキングやヨガやマタニティ講座も行われています。



栄養士による親子クッキングの様子

小山田桜台1～2丁目、上小山田町、下小山田町、図師町、
忠生1～4丁目、常盤町、根岸1～2丁目、根岸町、矢部町、山崎1丁目、山崎町



2020年度までに取り組んだこと

- 住民が気軽に訪れることができるみんなの居場所として「ほっとスペースさくらさくら」が小山田桜台団地の団地センター地区に開所しました。
- 要支援認定を受けた介護予防サービス等の利用者を対象に買い物外出に関するアンケートを行い、移動支援のニーズを把握しました。

今後の方向性

- 地域住民の資源マップを活用します。
- 住民主体の活動拠点の活用を進めます。

具体的取組

- アンケート結果を参考に資源マップの活用方法の具体案を地区別懇談会で検討します。

地区別懇談会等についてのアンケート結果

アンケート調査 結果から 見えたこと

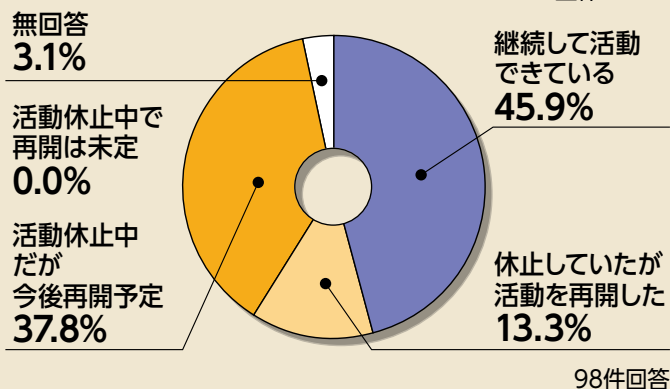
- コロナ禍で各々の活動を継続できている団体は4割半ばとなり、活動を継続している・再開した団体のうち、オンラインを活用している団体は半数程度

となっています。

- 個人・団体で今後やりたい、やってみたいと思うことは、様々な活動に回答が集まっています。

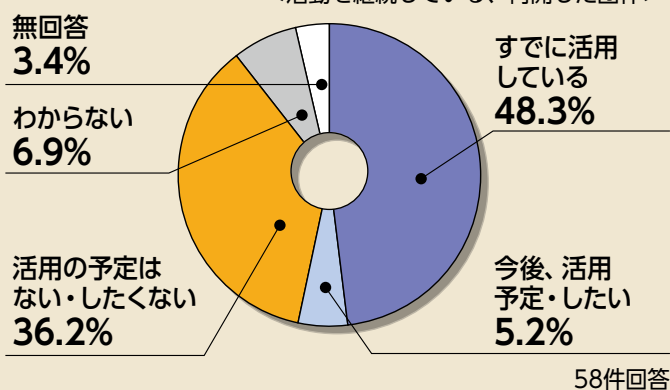
●コロナ禍における団体の活動状況

継続して活動できているのは4割半ば
＜全体＞



●コロナ禍における団体の活動状況

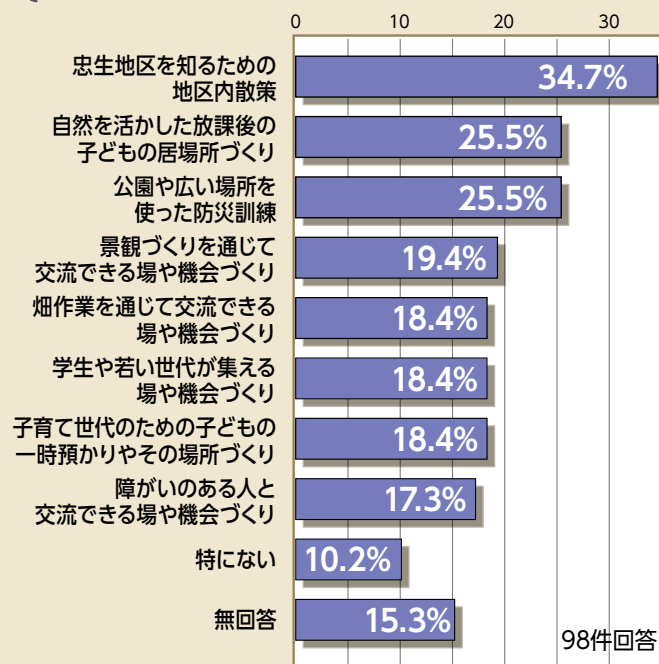
オンラインを活用しているのは半数程度
＜活動を継続している、再開した団体＞



●今後、やりたいこと

「地区内散策」が最も多く、「子どもの居場所づくり」、「防災訓練」が続いている。

【今後、個人もしくは所属団体としてやりたい、やってみたいと思うこと】＜全体、複数回答＞



資源マップの活用

資源マップの更新と活用についてご意見

2019年度の地区別懇談会のグループワークでは、「忠生地区にあったらいいこんなこと・自分もできるこんなこと」をテーマに、資源マップを見ながらたくさんのご意見をいただきました。

資源マップを相談者に対してお渡しする事ができると思うので、訪問時に配布するのも1つの方法かと思う。

連絡先、資源を利用して活動しているグループの紹介とどこかでリンクしていれば使いやすくなる。
ウェブがあるとアクセスしやすくなる。

ぜひ家庭保育も入れてほしい。コロナ禍、小人数の関わりを求めるご家庭が多く、また、ここで母親学級を求めているらっしゃる声を多数聞く。

自治会館に掲示したい。

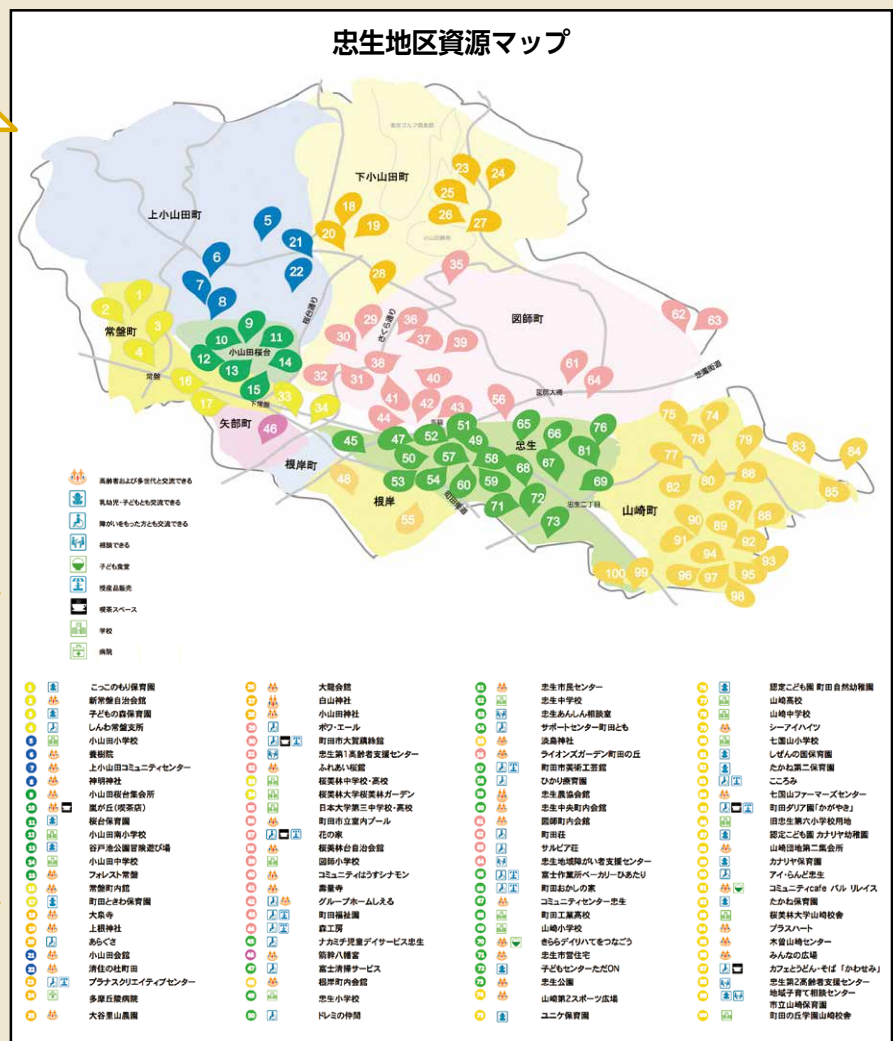
住所、連絡先が掲載できれば良い。
QRコードを使い、データでアクセスできれば良いのではないかな。

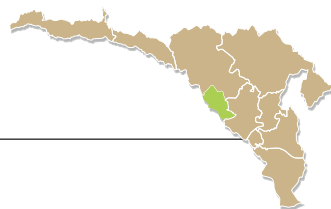
防災のために活用したい。

わかりやすいマップになっているので、時折更新していただきたい。

このマップでは、どこに何があるかわかるが、具体的内容がわからない。それぞれの資源を、地域の人がどんな時、どんな形で利用できるか、わかりやすい案内がほしい。

交流の場を求めている方、自宅にいて外出をしない方にこんな場所があるので行ってみたらと声かけをしたい。





2020年度までに取り組んだこと

- コロナ禍でのフレイル予防、つながりづくりとして屋外でのラジオ体操を始めました。
- 感染症対策をしながら、自主グループ等の活動を再開しました。
- 地域の保育園、学童保育クラブの子どもたちに言葉や絵のメッセージを書いてもらい、地域とのつながりをつくりました。

今後の方向性

- コロナ禍でも開催できるイベントや交流を開催します。

具体的取組

- オンラインを活用した情報共有、交流や日常生活支援について地区別懇談会で検討していきます。

2019年度 地区別懇談会の振り返り

2019年度の木曽地区の地区別懇談会は、地区の「夢」を語り合う場として、「木曽地区にあったらいいこんなこと・自分もできるこんなこと」を話し合いのテーマに、「多世代交流」「イベント」「子どもの居場所」「地域の見守り」「日常生活支援」「地域の情報発信」「木曽地区の夢を語る」の7つのグループをつくり、参加者からたくさんの木曽地区の「夢」やご意見をいただきました。

コロナ禍での
活動・取組

メッセージでつながる

近隣の保育園や学童保育クラブの子どもたちに言葉や絵でメッセージを書いてもらい、地域に掲示しました。直接会うことが難しい中でも、様々な方の声を届け、お互いの存在を確認することができています。



再開でつながる

コロナ禍でも三家宿ふるさと和楽では、活動を再開しました。これまでは、自宅や会場を日曜日だけ地域開放していましたが、カフェを併設し、定休日以外も一部開放しています。



ラジオ体操でつながる

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、自宅で過ごす時間が長くなり、運動不足を感じている方も多いと思います。木曽森野都営A棟若草会では、集会場前の広場を使用し、ラジオ体操への参加を呼びかけ、顔の見える関係づくりを行っています。

ラジオ体操
人気の秘密

ポイント1

早朝～午前中は
外出も安心！
人通りの少ない朝
や午前中に行うの
で外出も安心。

ポイント2

ソーシャル
ディスタンス
広い公園等の屋外で
行うため、人との間隔
を取りソーシャルディ
スタンスが保てます。

ポイント3

コミュニケー
ションの場
体操が終わると
ちょっとしたおしゃ
べりができること。



コロナ禍における活動についてのアンケート結果

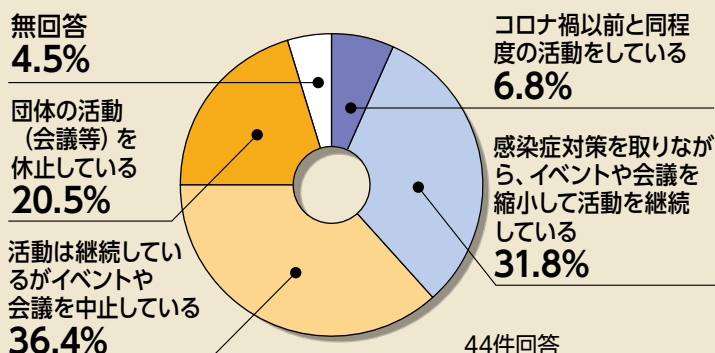
アンケート調査 結果から 見えたこと

- コロナ禍以前と比べて、イベントや会議が中止・縮小しているものの、活動を継続できている団体は7割弱です。
- 電話や訪問といった従来の手法に加えて、オンラインツールを活用してつながりを維持しています。

- コロナ禍だからこそ、普段の地域活動や人とのつながりの大切さを感じている人がいるほか、コロナ禍でも大切にしたい活動として、つながりづくりや毎日のあいさつといった意見が見られました。

● コロナ禍における団体の活動状況

イベントや会議を中止または縮小しているものの、活動を継続できている団体は7割弱 <全体>



● つながりを絶やさないための工夫

LINE等のツールの活用以外に、電話や訪問、外で会った際の交流が挙げられている <自由回答>

- 1ヶ月に1回長期欠席者には電話または訪問して本人の安否確認をしています。
- LINE等のツールを使って情報共有。
- 会議だけの枠以外で、戸外の立ち話や、役員1人1人への接触をもって、モチベーションを維持できるよう心掛けました。
- 世の中で不安要素となったマスク・アルコール等を近隣の方々に無償で配布して地域貢献ができた。
- Zoomでの会議に参加している。
- 町内で人を見かけたらソーシャルディスタンスを保ちつつ積極的に声をかける。等

● コロナ禍での嬉しかった変化、新たな発見

改めて地域の活動、人とのつながりの大切さを感じたという意見が見られた <自由回答>

- 人に会えない状況があったからこそ、普段の地域活動がとても重要なことであると再認識できたこと。
- 今年度はすべてのイベントが中止となり、改めてイベント出店等を通じての会員同志の交流、つながりが大切なものであったか認識できた。
- 人と会うこと、話すことの大切さがわかったこと。
- 盆踊り等のイベント予算を、コロナ対策に振り替えて、不織布マスクや手洗い用洗剤を購入し、全会員に配布しました。日ごろ顔を合わせない会員の方々とふれあうことができて良かったと思います。
- Zoomで新しい方とお知り合いになれた。
- 高齢者の見守りで訪問し、話すことはできないのでお知らせをポスト投函したら、電話をしてくださる方が何人かいたこと。等

● コロナ禍でも大切にしたい活動

地域のイベントのほか、つながりづくりや地域の見守り <自由回答>

- つながりづくり、日常生活支援、各種イベント。
- 毎日のあいさつの交流。
- 当団地での伝統的な催しと自治会行事。
- ひとり親、孤立している高齢者への声かけ。
- 児童登校時の交差点での見守り 等

● これから取り組みたい活動

イベントへ参加や情報共有・取得体制づくり、防災等 <自由回答>

- 積極的にイベントに参加していく。
- オンラインを活用した情報共有（掲示板や回覧板のデジタル化等）。
- 地域の方やお年寄りと触れ合えるような活動。
- 行政の情報を100%活用できる体制づくり。
- 防災意識の向上 等



大蔵町、小野路町、金井1～8丁目、真光寺1～3丁目、真光寺町、鶴川1～6丁目、能ヶ谷1～7丁目、野津田町、広袴1～4丁目、広袴町、三輪町、三輪緑山1～4丁目、薬師台1～3丁目(旧金井町の一部を含む)、金井ヶ丘1～5丁目(旧金井町の一部、旧大蔵町の一部)、藤の台3丁目(旧金井町の一部)、玉川学園4～6丁目(旧金井町の一部)、金井町

2020年度までに取り組んだこと

- コロナ禍で活動休止している団体の把握を行いました。
- 鶴川地区協議会の事業で「フードバンク鶴川」を立ち上げました。
- どこにもつながっていない要配慮者世帯の把握を行いました。(鶴川地区社協)

今後の方向性

- どこにもつながっていない要配慮者の災害時の支援方法を検討します。
- 鶴川地区の生活困窮世帯への食材支援を行います。

具体的取組

- 鶴川地区協議会と鶴川地区社協が連携し、研修や地区別懇談会を開催し地域住民同士のつながりをつくれます。

今後の鶴川地区の活動

鶴川地区協議会では、コロナ禍で食に困っている世帯への食材支援として「フードバンク鶴川」の事業を開始し、鶴川地区にお住まいの方々へ食材の支援を行いました。引き続き支援を継続するとともに、新しく鶴川地区社協の鶴川ボランティアセンター事業と連携して、災害時に食に困っている世帯へ、食材が配布できる仕組みを検討していきます。また、災害時に要配慮者世帯を鶴川地域みんなで支え合えるまちを模索し、検討していきます。

コロナ禍での活動・取組

コロナ禍だからこそ「コミュニケーション」の必要性を感じ、地域住民からの声を受けて、感染防止対策をしながら活動してきた2団体の紹介です。

子育てサロンポップコーン

第二清風園のテラスを活用

ポップコーンでは、場所を屋外に移し活動しています。第二清風園さんの敷地内にあるウッドデッキ上に、テーブルや椅子、小さいお子さんが靴を脱いで遊べるスペースを用意して、冬はストーブと温かい飲み物で暖を取りながら、おしゃべりや音楽を楽しみました。

サロン開催はゼロリスクではありませんが、検温・消毒を徹底し、屋外で距離を広くとることでリスク低減を図っています。子育て中の息抜きスペースになればと思います。



つるかわ CAP

地域住民の外出支援

コロナの影響で昨年の4・5月は中断しましたが、外出支援の要望は根強く、継続して活動をしています。利用の90%が通院目的のため、コロナ禍でも支援は止める訳にはいきません。ボランティア6人(男性4人、女性2人)でドライバーと添乗員による2人で活動しており、利用件数は累計で約280件となりました。

コロナ対策はポータブル手先消毒スプレーを携行し、走行中は窓を開け空気の流れを作る等、感染に気を付けて活動を行っています。



コロナ禍における活動についてのアンケート結果

アンケート調査 結果から 見えたこと

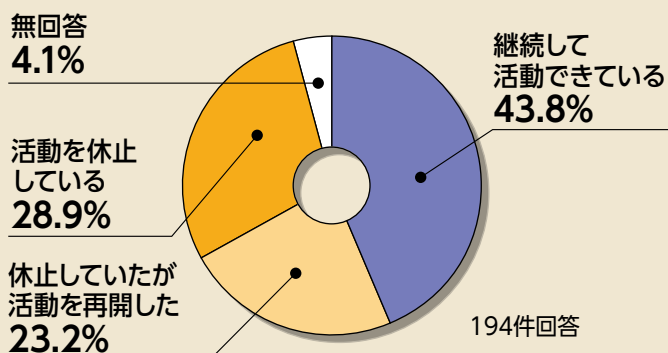
● 継続して活動できている団体、休止していたが活動を再開した団体を合わせると6割後半の団体が、コロナ禍でも活動を行っています。

● コロナ禍における活動の課題として、集合・対面による活動が難しい一方で、従来の実施方法の見直しやSNS・オンラインの活用、クラウドファンディングといった新しい手法を用いて活動を行っている団体も見られました。

● コロナ禍における団体の活動状況

継続して活動できている
団体は4割強

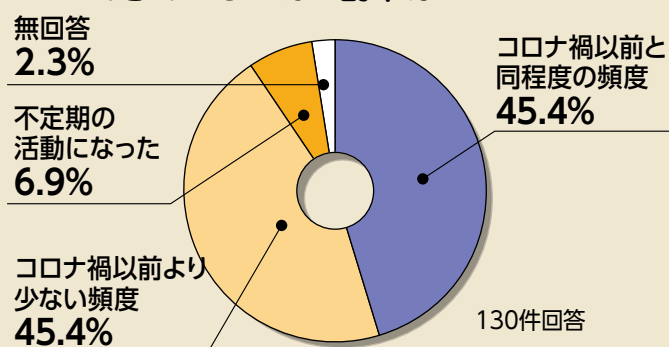
<全体>



● 活動の頻度

活動を継続している・再開した団体では、
以前と同程度の活動が
できているのは4割半ば

<全体>



● 課題に感じていること

集合や対面できないことによる
活動等の課題が見られた

<自由回答>

- 感染しないための対策。
- 計画通りの活動が実施できないこと。
- 室内での開催場所の確保。
- 電話だけでは伝わらない、気づけないこと、様々な状況を見逃しているのではないかな。
- 人とのコミュニケーション不足による活動の難しさ。

● 工夫していること

感染対策の取組、実施方法の見直し、
新しい手法の活用が見られた

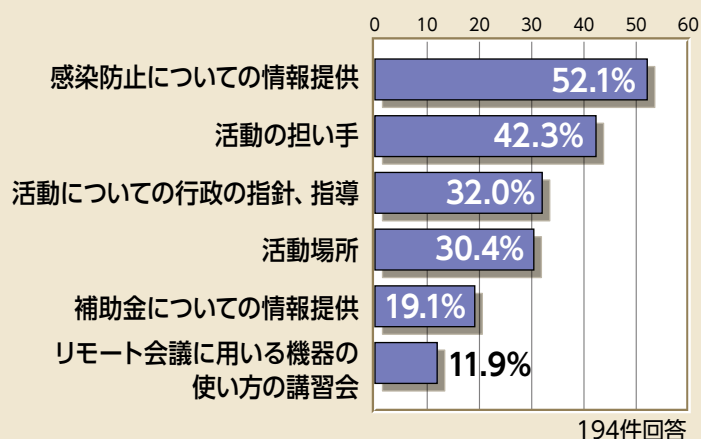
<自由回答>

- 役員はSNSで連絡と情報の共有・回覧のかわりに掲示板に貼り出す。
- 事前連絡で予約制にしたり、距離をとって遊んでもらえるようにする。
- クラウドファンディングを利用したソーラーステージカー（移動式ステージ）の資金調達を準備中。

● 再開、継続していくために必要なこと

「感染防止についての情報提供」

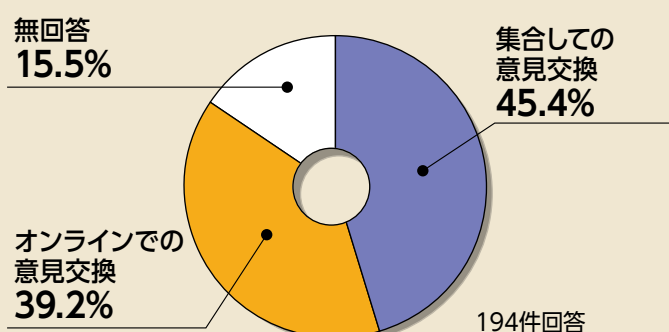
が5割強 <全体、複数回答>（その他、無回答のぞく）

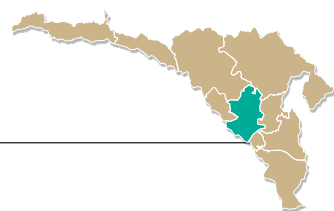


● 2020年度以降の地区別懇談会の開催方法

「集合しての意見交換」が4割半ばと
「オンラインでの意見交換」よりも多い

<全体>





2020年度までに取り組んだこと

- 保育園を利用している保護者を対象にコロナ禍でも親子で楽しめるイベントに関するアンケートを実施し、参加状況やどんなイベントならコロナ禍でも楽しめるか等を聞きました。

今後の方向性

- 親子で参加できるイベントを通して、お父さんを含めた子育て世代が地域に興味を持つきっかけづくりを進めていきます。

具体的取組

- アンケート結果を踏まえ、コロナ禍でも参加できるイベントを企画します。

コロナ禍での
活動・取組

町田第一小学校お父さんネットワーク

親子で楽しめるイベント等を通じた
つながりづくり

新型コロナウイルス感染症の影響から、これまでどおりの活動が難しく、戸惑いながらもコロナ禍の中でどのように活動していくかを模索しました。

コロナ禍でもできる活動として、感染防止に努めながら、町田シバヒロを使って親子で楽しめる「健康維持体操&水鉄砲」や、お父さんも気軽に地域デビューができる「ゆるゆるお父さん遠足inシバヒロ」等の「気軽に」「ゆるやかに」参加できるイベントを企画し実施しました。

イベントの実施だけでなく、オンラインミーティングを活用し、緊急事態宣言中の子どもの食事応援団体や、町田木曽の水かけ祭のコアメンバー、まちカフェイベン

トを通して町田サポートオフィス等、地域で活動している団体と新たなつながりをつくることができました。また、オンラインミーティングを活用することで、忙しくて今までなかなか参加できなかったお父さんネットワークのメンバーも参加するようになりました。

いつ終息するかわからない新型コロナウイルスですが、こんな時だからこそ、お父さんネットワークでは「ゆるゆる」と「できる事」を「できる人」がおこなう『ユルさ』を大切にしながらwithコロナにマッチした、地域や親同士の「ゆるやかなつながり活動」を続けていきます。

ゆるゆるお父さん遠足
inシバヒロのチラシ



健康維持体操&水てっぽうの様子

コロナ禍でも親子で楽しめるイベントに関するアンケート結果

アンケート調査 結果から 見えたこと

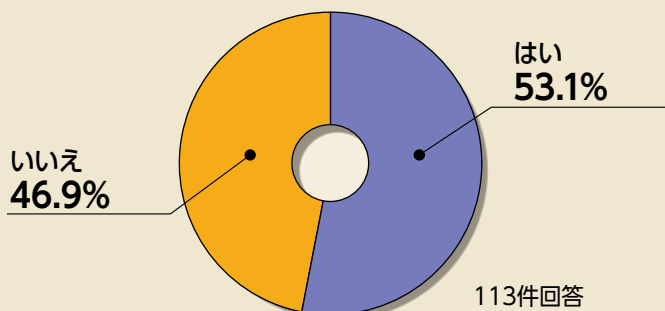
●地域の親子向けイベントには半数以上が参加しており、感染防止に配慮した上でのコロナ禍でも楽しめるイベントの開催を7割以上が希望しています。

●コロナ禍でも楽しめるイベントとして、屋外のイベントの希望が多くなっています。

●親子イベントへの参加状況

半数以上が地域の親子イベントに参加したことがある

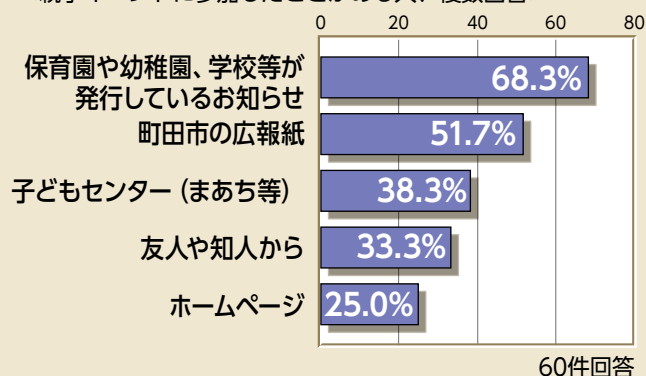
<全体>



●イベントの主な情報の入手先

「保育園や幼稚園、学校等が発行しているお知らせ」が7割弱

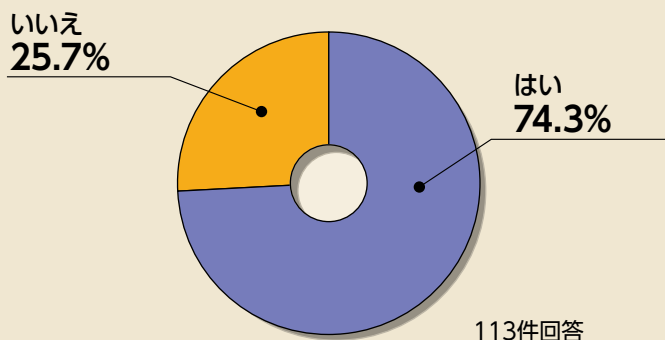
<親子イベントに参加したことがある人、複数回答>



●地域の親子イベントの開催希望

7割以上が地域の親子イベントの開催を希望

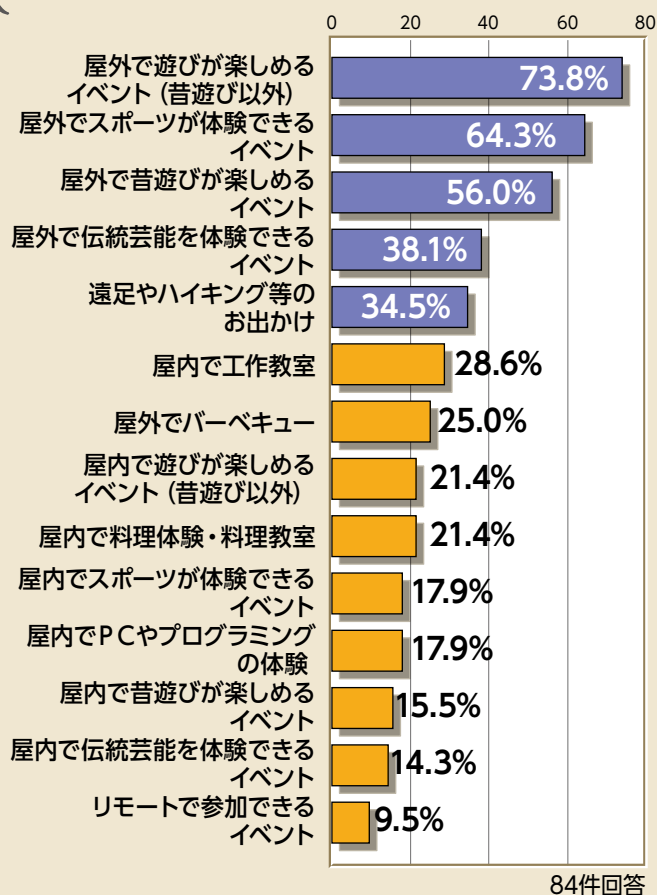
<全体>



●希望するイベントの内容

上位5位まで屋外での遊びやスポーツ等のイベントが占めている

<コロナ禍でも楽しめる地域の親子イベントの開催を希望する人、複数回答>



●あったらいい、参加してみたいイベント

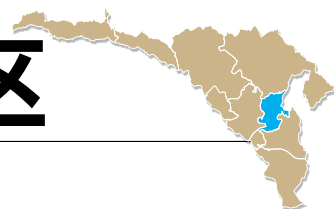
外で体を動かしたりすることやお祭り、自宅で体験できない農業や製作等があがった

<自由回答>

- お祭り、焼き芋、餅つき。
- 身体を動かして、他人と交流できる遊びが良いです。
- 野菜の収穫体験等。
- 大きな子ども向けに、屋外での工作遊びや、それを使った身体を動かせる遊びがあるといいなと思います。



玉川学園・南大谷地区



玉川学園1～8丁目、東玉川学園1～4丁目、南大谷、
金井ヶ丘2～3丁目の一部(旧玉川学園5～6丁目の一部)

2020年度までに取り組んだこと

- 玉ちゃんサービスや南大谷みいちゃんサービス等の生活支援団体の利用者や協力者の確保に向け必要だと思われることを聞き取りするため、地域住民や関係団体等にアンケートを実施しました。

今後の方向性

- アンケート結果を生活支援団体に共有し利用者や協力者の確保について検討します。

具体的取組

- 引き続き生活支援団体の支援を行います。

地区別懇談会等についてのアンケート結果

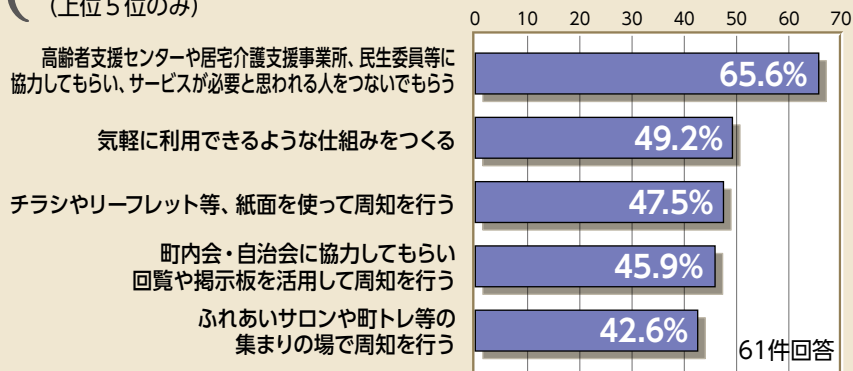
アンケートの目的

これまでの玉川学園・南大谷地区の地区別懇談会は、地域住民同士で互いに支え合う仕組みである「生活支援活動」について話し合いを行ってきました。生活支援活動をより良くするために必要なことをアンケートで聞きました。

●利用者を増やすために必要なこと

「高齢者支援センターや民生委員からサービスが必要と思われる人をつないでもらう」が6割半ば

【生活支援活動の利用者を増やすために必要なこと】＜全体、複数回答＞
(上位5位のみ)



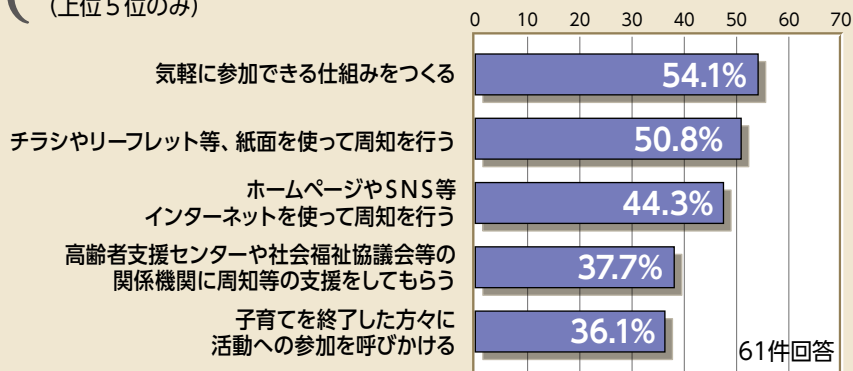
【具体的に必要だと思うこと】＜自由回答＞

- 何でも相談できる雰囲気づくり・環境が何より必要。
- サービスが必要な方々を把握できるよう人とのつながりで気軽に利用できるような仕組み。
- 各地域での見守りから信頼関係づくりをしていく事が必要。

●協力者を増やすために必要なこと

気軽に参加できる仕組みをつくること、
チラシ等の紙面での周知が5割台

【生活支援活動の協力者を増やすために必要なこと】＜全体、複数回答＞
(上位5位のみ)



【具体的に必要だと思うこと】＜自由回答＞

- 具体例をPRする等、活動がある事を知ってもらう。
- ボランティアによる支援も大切だと考えるが、些少であっても謝礼金が出せるとよい。
- 協力者と希望者のマッチングをしてくれる仕組みづくりが必要。

互いに支え合う 仕組みづくり

地域住民同士で互いに支え合う 仕組み「生活支援活動」とは？

地域の住民がちょっとしたお手伝いや自身ができることで登録してもらい、体が不自由な高齢の方や障がいのある方の「買い物」「お掃除」「地球交換」等の「ちょっとした困りごと」のお手伝いをする、地域住民同士で互いに支え合う有償ボランティア活動です。

玉川学園・南大谷地区の生活支援活動の紹介

玉川学園地区社協 玉ちゃんサービス

コロナ禍の訪問に 感謝の声をいただきました

2017年度に本格稼働してからおかげさまで5年目を迎えます。

昨年度はコロナウイルスの感染拡大の影響により、不安な日々を過ごす中で、「つながりを大切に」しながら感染予防を徹底し、掃除等の家事の補助、庭の草むしり等の日常のちょっとした困りごとのお手伝いを続けてきました。

コロナ禍の影響で利用実績は減少しましたが、利用者さんから「こんな時だからこそ、いつものように訪問してくれる協力者さんに本当に感謝です」という嬉しいお言葉もいただきました。

身近な支え合いで、みんなが笑顔になる玉川学園を目指している玉ちゃんサービス。お手伝いを必要とされている方、お気軽にご相談ください。お手伝いをしたいという方、ご参加お待ちしております！



玉ちゃんサービス チラシ

南大谷みいちゃんサービス

お気軽にご相談ください

町田第3高齢者支援センターや玉ちゃんサービスの協力を得て、かつて地域にあった「ご近所どうし、困ったときはお互いさま」の精神をもとに、2020年1月7日から、南大谷地区で日常生活支援サービスとして『玉ちゃんサービス南大谷』がスタートしました。

そして、昨年度はコロナ禍の影響を受けながらも1年間地道に活動を積み重ね、今後もより南大谷に密着し頼られる団体を目指し、2021年4月に名称を『南大谷みいちゃんサービス』に変更します。

「日常生活の中のちょっとした困りごとがあって助けてもらいたい！」そんな困りごとがありましたら、お気軽にご相談ください。

また、困っている人をサポートする協力者も募集しています。



南大谷みいちゃんサービス チラシ

アンケート 結果から 見えたこと

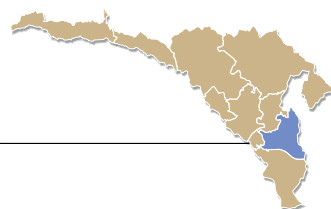
より地域に 玉ちゃんサービス・ 南大谷みいちゃんサービス を広げていくために

必要な人に 利用してもらうために

- 生活支援を必要としている人の情報を協力者につなぐ方法の検討が重要です。
- 気軽に利用してもらうために、普段からサービスの周知を行うことや、気兼ねなく相談できる雰囲気づくりが必要です。

協力者を 増やしていくために

- 地域の人たちにサービスを知ってもらうために、紙ベースやWebを活用しながら周知を継続していきます。
- その際に「自分のできること」や「自分のできる時間」で気軽に参加してもらうために、「これなら自分でもできる」というイメージを持ってもらうことが必要です。



2020年度までに取り組んだこと

- 地域住民の誰もが参加できる「みんなの食堂」の立ち上げに向けて、地域住民と高齢者支援センターが検討と準備を進めてきました。
- 高ヶ坂・成瀬地区協議会の事業の1つであるスマホ互助交流会を月に1回開催するようになりました。

今後の方向性

- みんなの食堂が地域住民の居場所になるよう、取り組みます。
- つながりリストを活用して、団体同士でつながり、地域の行事の再開をめざします。

具体的取組

- 地区別懇談会を活用して、つながりリストの活用方法と地域の行事の再開を地域住民みんなで考える場をつくります。

2019年度 地区別懇談会の振り返り

これまで高ヶ坂・成瀬地区の地区別懇談会では、地域の中のつながりや住民同士の助け合い活動について、話し合ってきました。その中で、地域の団体同士でつながりたいというご意見を受けて、2018年度に同意をいただけた活動団体を一覧にした「つながりリスト」を社会福祉協議会で作成しました。

そして、2019年度の地区別懇談会では、参加者や団体に「つながりリスト」を配布し、地域における「多世代交流活動」を促進する方策について話し合うとともに、リストの充実に向けた更新に、ご協力いただきました。

コロナ禍後の
活動に向けて

みんなの食堂

プレオープンイベントを開催予定

2019年度1月から地域介護予防教室で「みんなの高ヶ坂食堂をつくろう!」の講座を開催し、地域に多世代交流ができる食堂の立ち上げに向けて、地域住民が準備を進めてきました。緊急事態宣言の発出により、講座の一部は中止になりましたが、2020年秋には調理実習を実施、年度末には5月の食堂オープンに向けて体制づくりを行います。

今後は、みんなが安心して活用できる、地域に根付いた多世代交流の場をめざし、「みんなの食堂」のプレオープンイベントを開催し、PRを進める予定です。



鞍掛台移送支援

無料送迎車で接種希望者の送迎へ

福祉事業者の送迎車を活用した無料送迎車「くらちゃん号」は、2020年4月3日より週2回の本稼働がスタートしましたが、4月7日から緊急事態宣言が発出され当面の間運休となりました。解除後は、利用者・ドライバーはマスク着用、車内のアルコール消毒、換気等の感染防止対策を実施したうえで運行を再開しました。

今後は、高齢者の新型コロナウイルスワクチン接種希望者の送迎等にも活用していきたいと思っています。



コロナ禍における活動についてのアンケート結果

アンケート調査 結果から 見えたこと

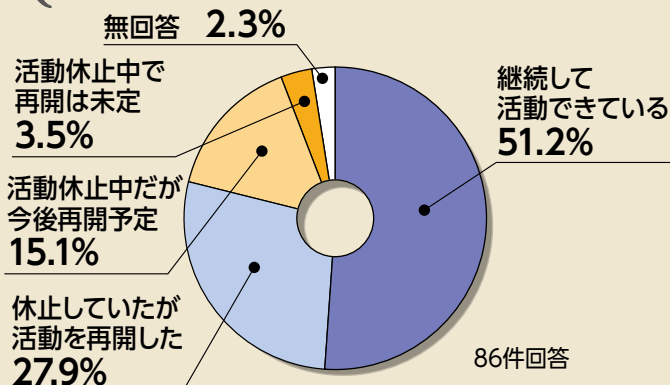
●コロナ禍にあっても継続して活動できている団体が5割以上と多い一方で、活動はコロナ禍以前よりも少ない頻度という回答が最も多くなっています。

●コロナ禍による活動の縮小や、活動を続けるために活動内容が見直されており、「コロナ収束後に他団体と一緒に実施したいこと」では、お祭り等の地域の行事・活動の再開の意見が多くなっています。

●コロナ禍における団体の活動状況

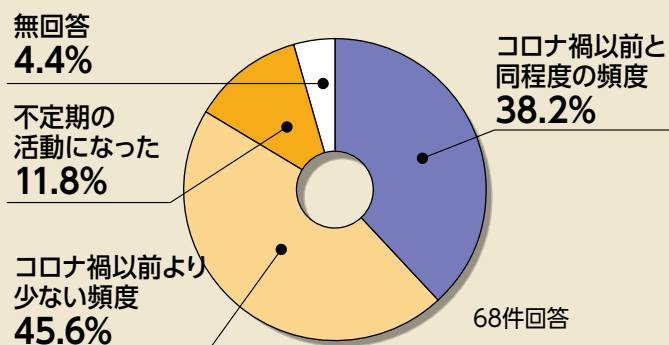
**継続して活動できている
団体は5割強**

<全体>



●活動の頻度

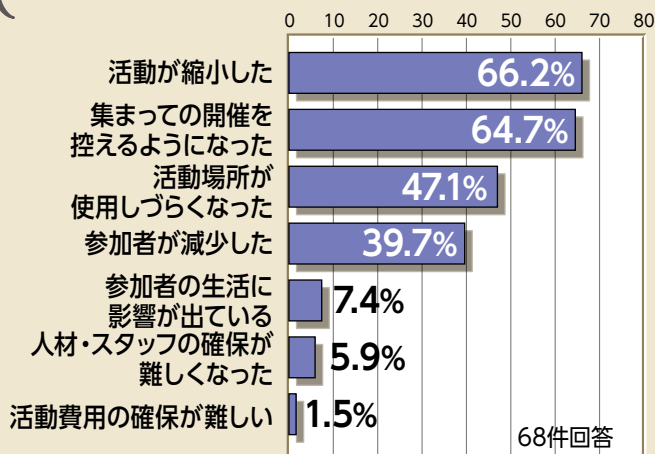
**活動を継続している・再開した団体では、
以前と同程度の活動
できているのは4割弱**



●コロナ禍での活動の変化

**活動の縮小や集まっての開催を
控えるようになったが6割台**

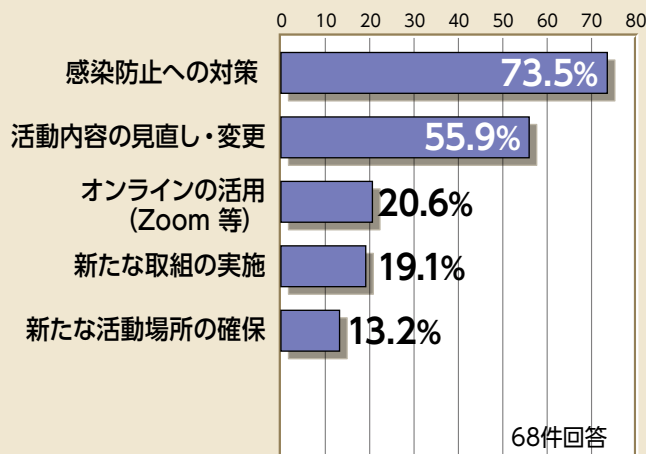
<全体：複数回答>（その他、無回答のぞく）



●変化に対する対応策・工夫

**感染防止への対策が7割強、
活動内容の見直し・変更が5割半ば**

<活動を継続している・再開した団体>（上位5位のみ）

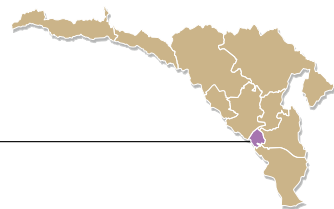


●コロナ禍後に実施したいこと

**従来実施していたお祭りや
防災訓練等の
地域の行事・活動の
再開が多く挙げられた**

<コロナ禍が収束した後に、
他団体と一緒に実施したいこと、
自由回答>

- これまで通り、近隣自治会と共に開催しているお花見会、花火の夕べ、防災訓練、どんど焼きを開催したい。
- 町内会・自治会との交流会、PTAとの交流会、子ども会との交流会。
- 地域のバザー等があれば、出店したい。（そういったイベントを機に事業所の存在を地域の方に知ってもらいたい）
- 以前のようなスポーツ・運動の交流、フェスティバル等の交流を望んでいます。
- まずは団体内のコミュニケーションが希薄になってきているので、立て直してから他団体とのつながりになると思います。
- 小学校が基点なので、活動がやりにくくなったので、従来通りの行事を再開したい。
- 情報交換会（問題の共有と解決策をさぐるため）
- 園児の地域の方との交流（高齢者や未就園児） 等



2020年度までに取り組んだこと

- 町内会・自治会エリアごとに防災マップを作成します。2020年度は原町田三丁目、原町田四丁目のエリアで防災マップを作成し各世帯および関係機関に配布しました。

今後の方向性

- 残りのエリアの防災マップを作成します。
- 町田第一地区全体版の防災マップを作成します。

具体的取組

- 原町田地区協議会と連携しながら、取り組めるエリアから防災マップを作成します。

地区別懇談会等についてのアンケート結果

アンケート調査
結果から
見えたこと

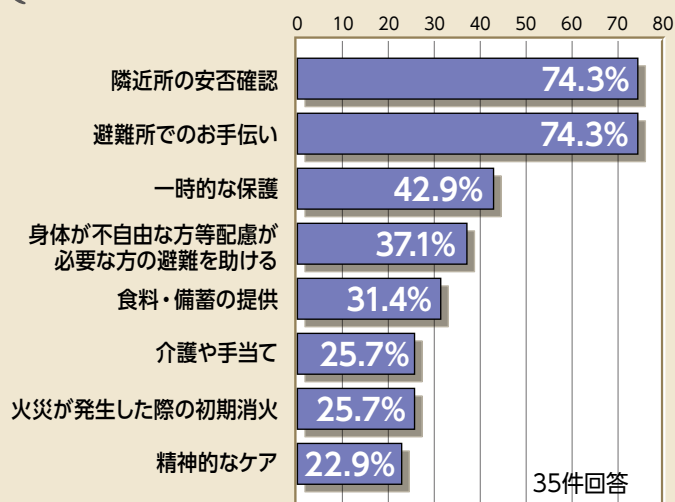
- 災害時の助け合いとして、「隣近所の安否確認や避難所でのお手伝いができる」という回答が7割台でした。
- 「災害時に助け合いができるために必要なこと」では、隣近所同士のコミュニ

ケーション、町内会・自治会への加入といった身近なつながりについての割合が高い一方で、地域の企業や福祉施設等との連携の割合は比較的低くなっています。

●災害時の地域住民同士の助け合いでできること

「隣近所の安否確認」、
「避難所でのお手伝い」が7割台

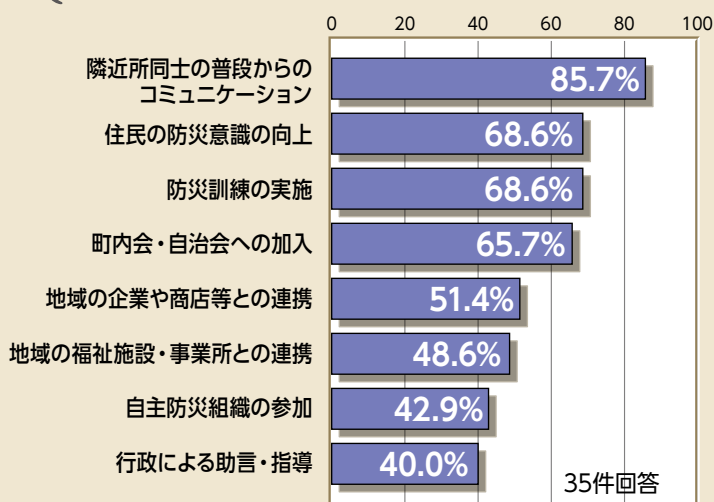
<全体、複数回答> (その他、わからないのをのぞく)



●災害時に地域で助け合いができるために必要なこと

「隣近所同士の普段からの
コミュニケーション」が8割半ば

<全体、複数回答> (その他、わからないのをのぞく)

●今後の地区別懇談会で
取り入れたいテーマ

より具体的に
地域の防災を考えたい
という意見が多く挙がった

- 町田第一地区の現状で自主防災組織の確立の可能性を検証したい。
- 大規模災害での情報伝達とその有効かつ効果的な利用の検証。

- 女性、障がい者、要介護者等社会的に弱い方々の防災について。
- 高層マンションが多くなり、地区内でのつながり、助け合いができるアイデア。

防災マップづくり

【2019年度 地区別懇談会の振り返り】

2019年度の町田第一地区の地区別懇談会は、地域の防災に関する情報共有に向けて、防災マップづくりのためのまち歩きを行いました。当日は3つのグループに分かれ、原町田1・3丁目周辺、原町田4丁目周辺、原町田5・6丁目周辺を歩いて、気づいたことを地図上に書き記して、共有を行いました。



まち歩きの様子



まち歩き結果の整理の様子

町田第一地区における 防災マップの 取組について

町田第一地区では原町田地区協議会が主体となり、2019年度のまち歩きから引き続き防災マップづくりをしています。まずはエリアごとの防災マップを順次つくっていき、最終的に町田第一地区全体版の防災マップを作成します。できあがった防災マップは各家庭や関係機関に配布し、地域の防災に関する情報共有を図ります。

防災マップの名称については「もしもの時に備える」という意味を込めて、「もしものマップ」としました。

2020年度は、原町田三丁目と原町田四丁目の2つのエリアで「もしものマップ」を作成しました。

原町田三丁目 もしものマップ

町田第一地区の「もしものマップ」は原町田三丁目からスタートしました。

原町田三丁目町内会が中心となり、試行錯誤を繰り返しながら、誰が見ても「分かりやすい」「見やすい」マップづくりにこだわりました。

マップには「いつとき避難場所（一時避難場所）」と、避難施設に行くまでの流れを取り入れ、大規模災害が発生しても慌てずに避難できるよう「もしも」に備えています。

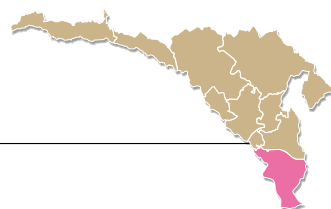


原町田四丁目 もしものマップ

原町田四丁目の「もしものマップ」は原町田四丁目第一町内会と原町田四丁目第二町内会が中心となって作成しました。

原町田四丁目は町田駅からも近く商業施設や公共施設が多いので、赤ちゃんを連れて安心して外出できるよう、授乳やオムツ替えのスペースを提供している「赤ちゃん・ふらっと」「赤ちゃん休憩室」がある店舗や施設もマップに記載しています。





小川1～7丁目、金森1～7丁目、金森東1～4丁目、つくし野1～4丁目、
鶴間1～8丁目、成瀬が丘1～3丁目、南つくし野1～4丁目、南町田1～5丁目

2020年度までに取り組んだこと

- 南地区で活動しているボランティア団体等が、新型コロナウイルス感染拡大の中でも工夫して取り組んでいること等を、アンケートで聞きました。

今後の方向性

- コロナ禍でも工夫していることを団体同士で共有しながら団体活動の活性化に向けて支援を行います。

具体的取組

- 報告会等を通じてアンケート結果を共有し、団体同士で情報交換を行います。

コロナ禍での活動・取組

みどり会：町トレ風土部

屋外に活動の場を移し、 発見と学びの場へ

みどり会：町トレ風土部は、金森親和会集会所を拠点に活動をしている町トレ（町田を元気にするトレーニング）のグループです。

コロナが蔓延し室内での町トレやその他レクリエーションは自粛となりましたが、屋外に活動の場を移し「野外自然観察会」及び「史跡探訪」を行っています。

メンバーの中に森林インストラクターの方がいることもあり、近所にもたくさん残っている自然を楽しみながら発見と学びと親睦を深めています。



◀野外自然
観察会の様子



すずかけハッピー隊ラジオ体操

3月より活動再開！ 同時刻に自室で参加の方も

すずかけ台ハイタウンのなかよし広場にて、毎朝6時半から活動されています。活動内容はラジオ体操第1、第2を実施。マンションでお住まいの方を中心に、毎日10名前後が参加されています。

自室のベランダにラジカセを置き、同じ時間に体操をしてくださっている方もいます。冬季は皆様の体調を加味し、しばらくお休みでしたが、3月より活動を再開されています。体操をした後は「気持ちがいいね」とのお声もあり、皆様も再開するのを指折り数えてお待ちになるほどだったそうです。



コロナ禍における活動についてのアンケート結果

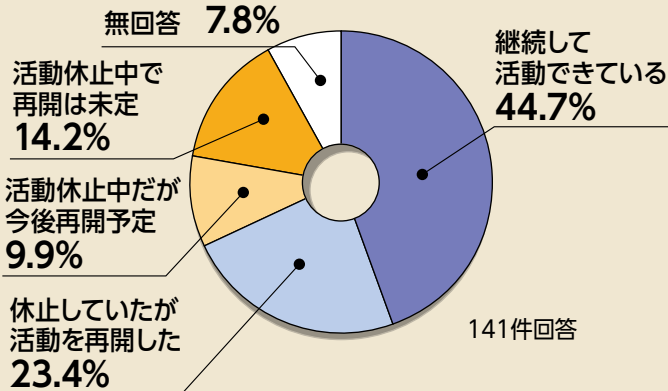
アンケート調査 結果から 見えたこと

●コロナ禍で活動を継続できている団体は4割半ばとなっており、活動を再開、継続していくために必要なことは、「感染防止についての情報提供」、「活動の担い手」が多くなっています。

●活動を継続している・再開した団体で、以前と同程度の活動ができているのは3割弱であり、活動の変化に対する工夫では、「感染防止対策」、「活動内容の見直し・変更」が多くなっています。

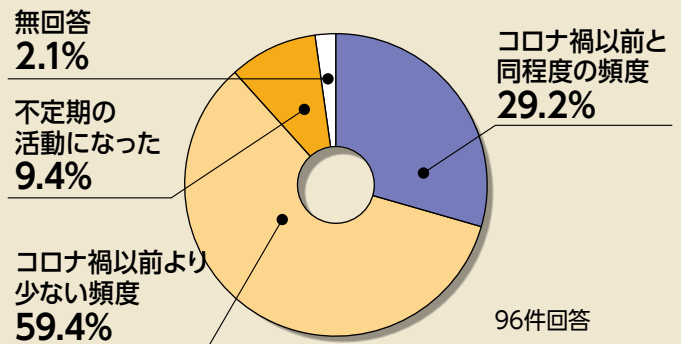
●コロナ禍における団体の活動状況

継続して活動できている
団体は4割半ば <全体>



●活動の頻度

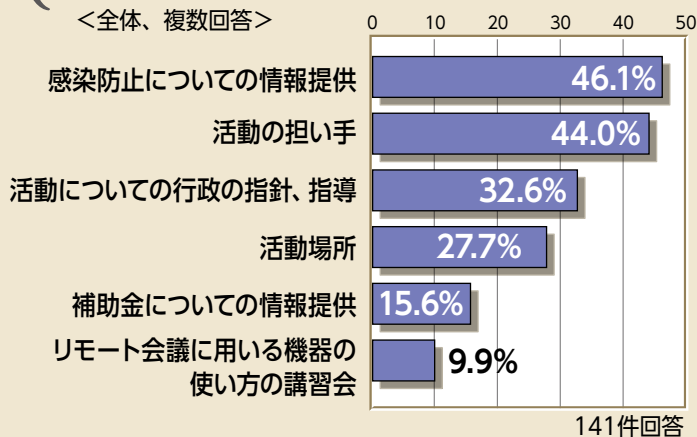
活動を継続している・再開した団体では、以前と同程度の活動ができているのは3割弱



●再開、継続していくために必要なこと

「感染防止についての情報提供」、「活動の担い手」が多くなっている

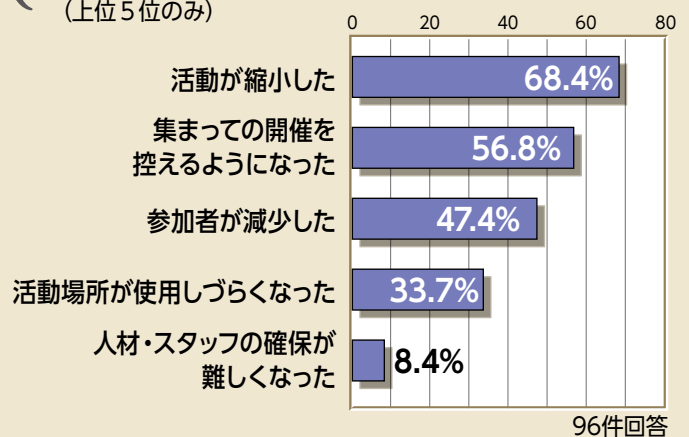
<全体、複数回答>



●コロナ禍での変化

「活動の縮小」が最も多い

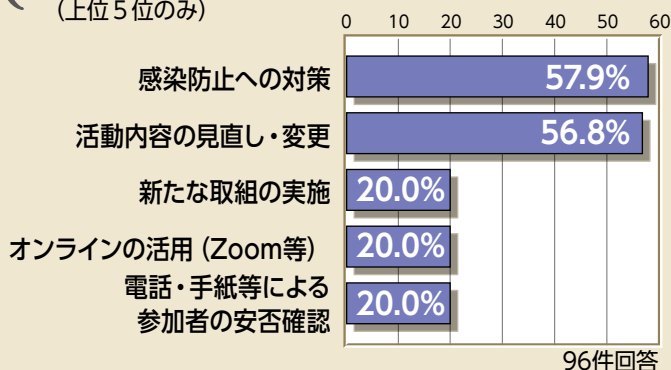
<活動を継続している・再開した団体、複数回答>
(上位5位のみ)



●変化に対する対応策、工夫していること

具体的な検討・工夫が多く見られた

<活動を継続している・再開した団体、複数回答>
(上位5位のみ)



●具体的な対応策、工夫

<活動を継続している・再開した団体、自由回答>

- 活動について周知し、興味、関心、理解を持ち続けて欲しいため、会員向けのおたよりを増やした。
- 自治会役員内はグループLINEを組み、情報交換等、日々の連絡網として活用した。
- 他団体との会議等はオンライン化した。

アンケート調査
結果から
見えたこと

コロナ禍の活動等への 心配ごと、 工夫していること

コロナ禍の活動等における心配ごと

会員のボランティアに
対する意欲が
下がるのではないかと
心配している。

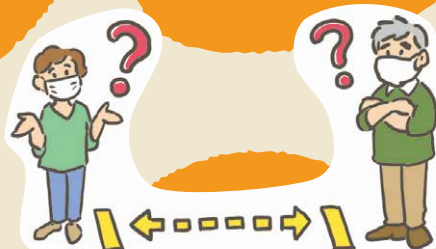
一人暮らしの人の
訪問ができず、
様子が分からない。

高齢者の活動低下による
心身の機能低下が
懸念されます。

担い手の募集をしても、
コロナ禍の中で
応募があるのか不安です。

コミュニケーション不足
になること。

活動回数は従前通りだが、
利用者の減少が
運営資金に影響している。



工夫していること

気になる方に
訪問や電話で
連絡している。

回覧のかわりに
掲示板に貼り出す。

できるだけ、
地域との連絡を
絶やさないように
している。

オンライン会議の
実施。

会員向け
のおたよりを
増やした。

検温と手指消毒、
マスクの着用、
実施場所を屋外に変更。

大勢の人が密に
ならないように
プログラムの見直しや
環境を整えたりしている。

自治会役員内は
グループLINEを組み、
情報交換等、
日々の連絡網
として活用。



これまでの地区別懇談会の経過

3年間の参加者数の推移

地区別懇談会の参加者数は、2019年度は382人で、2017～2019年度の平均参加者数は373人となっています。

年度	参加者数
2017年度	375人
2018年度	362人
2019年度	382人

3年間のテーマの変遷

各地区の過去3年間の地区別懇談会では、子ども・子育て、高齢者、交流、支え合い、地域の居場所、安全等をテーマとして話し合いが行われてきました。

各地区で回を重ねながら話し合いをより深め、新しい交流やつながりづくり等の活動につながっています。



地区名	2017年度のテーマ	2018年度のテーマ	2019年度のテーマ
相原地区	高齢者の方が地域で暮らし続けられるまちづくり	高齢者の方が地域で暮らし続けられるまちづくり ～地域住民が得意なことを持ち寄り、支え合うしくみづくり～ (相原人材BANKの設立に向けて)	地域住民が支え合うしくみづくり ～相原人材BANKの設立に向けて～
小山地区	多世代交流の場づくり ～子どもが輝けるまちづくり～	多世代交流の場づくり ～子どもが輝けるまちづくり～	多世代交流の場づくり ～子どもが輝けるまちづくり～
忠生地区	誰もが気軽に集える地域の居場所づくりについて	誰もが気軽に集える地域の居場所づくりについて	誰もが気軽に集える地域の居場所づくりについて ～わがまち知ろうマップ・作っちゃいました～
木曽地区	安心して暮らせるまちづくり ～見守り、声かけできる地域づくりを目指して～	安心して暮らせるまちづくり ～見守り、声かけできる地域づくりを目指して～	安心して暮らせるまちづくり ～木曽地区を“夢”のあるまちに～
鶴川地区	大好き鶴川! みんなが交流できるまちづくり	大好き鶴川! みんなが交流できるまちづくり	大好き鶴川! ～みんな集まれ! 地域のイベント情報大集合～
町田第二地区	安心安全のまちづくりに向けた住民同士のつながりづくり	若い世代や男性が地域活動に興味を持ち、活動に参加できるきっかけづくり	お父さんが活躍できる場づくり
玉川学園・南大谷地区	近隣とのつながりから、地域の「たすけあい」「支え合い」活動へ	ふるさと玉川学園・南大谷 ～隣近所とのつながりと支え合いを考える～	ふるさと玉川学園・南大谷 ～ご近所同士でできる支え合い～
高ヶ坂・成瀬地区	ご近所とつながりが持てない高齢者を、できるところから支える仕組みづくり	地域のつながりから住民同士の助け合い活動へ	高ヶ坂・成瀬を元気にする多世代交流の場づくり
町田第一地区	安心安全のまちづくりに向けた住民同士のつながりづくり	安心安全のまちづくりに向けた住民同士のつながりづくり ～防災をきっかけとしたつながりづくり～	安心安全のまちづくりに向けた住民同士のつながりづくり ～防災マップづくりに向けたまち歩き～
南地区	地域でできる子育て支援について	地域でできる子育て支援について	いくつになっても活躍できるまち・南



町田市社会福祉協議会
イメージキャラクター
「あいちゃん」

**第3次町田市地域福祉計画
町田市社会福祉協議会 第四次地域福祉活動計画
地区活動計画 2020年度版**

発行 2021年3月
町田市地域福祉部福祉総務課
〒194-8520 東京都町田市森野2-2-22
TEL: 042-724-2133 (直通) FAX: 050-3101-0928